

- 1 派遣期日 令和5年11月25日（土）
- 2 派遣先 学校名 明星学園小学校・中学校（井の頭キャンパス）
所在地 〒181-0001 東京都三鷹市井の頭5-7-7
<https://www.myojogakuen.ed.jp/>

3 研修内容 『教科教育が担うものとは』

①公開授業

②全体会：講話「学校教育の課題」 【特別講師 内田 樹】

①公開授業（比留間 修吾 明星学園 中学校）

授業テーマ 「物をより遠くへ投げるための効果的な技術的指導について～理論と実践～」

1. 単元名 陸上競技 投種目：ジャベボール（第9学年4組）

2. 指導にあたって

（1）教材について

ジャベボールは、陸上競技の槍投げに繋がる競技として位置付けられており、「走る・踏み切る・投げる」といった運動の基本的要素の組み合わせによって構成されている運動である。ジャベボールは長さ約32cm、重さ約140g、後方に3枚の羽を備える投擲物である。2016年から全国小学生陸上競技交流大会でソフトボール投げに変わって採用されている。

（2）指導について

8年生（中学2年）時に一度ジャベボールの授業を行っているが、単元の初めにボールの握り方・ピッチング動作と槍投げの投動作との違いなどの基礎的な項目の確認から実施した。投げる動作に対して苦手意識をもっている生徒もいるので、一連の投動作（テイクバック・重心移動・スナップ・リリース）を行うことで綺麗な音が出ることを指導する。基礎的な動作の練習を毎時間取り入れ、実際の槍を投げるといった高度な内容も体験して、本来の競技の楽しさに気づけるような工夫をしている。また、授業では個人スポーツではあるが、生徒同士の教え合いによって仲間をより感じることができるよう生徒同士の声掛けなどは日々の授業から意識をさせている。後半は、発表会形式を取り入れ、最後の授業（本時）で各グループの課題改善の過程を発表し、他のグループが評価を行った。

3. 本時（全5時間中の5時間目）

（1）本時の目標

- ・上肢だけでなく、下半身からの力の伝導によって効率の良い投動作を目指すことができる。
- ・課題改善のために練習をしてきたフォームで運動の局面融合がされた投動作を目指すことができる。
- ・それぞれのフォームを見ながらアドバイスをし合い、運動感覚を身につけることができる。

(2) 本時の展開

時間	1	2	3	4	5
0 分	○導入（挨拶・出席確認・健康観察・振り返り・本時の目標確認）				
	○オリエンテーション ・学習の流れの確認	○基本となる投運動の（スナップ・重心移動・リリース動作）の習得 ・フォームの確認（シャドー） ・ペアでのキャッチボール（遠投）	○グループ毎の課題抽出＋練習① ・1グループ 9 ～ 10 名 ・練習をしていく上で発表者と撮影者投の担当を決める	○グループ毎の課題抽出＋練習② ・最終授業での発表のための練習 ・課題とするポイントの明確化 ・改善ポイントを自動化させるための練習	○グループ毎の課題克服テスト ・各グループで設定した課題に対して取り組んだ内容を他のグループが評価を行う ・評価の規準を明確化するためにタブレットにて撮影を行う
	○基本動作 ・ボールの握り方・構え ・ピッチングフォーム	○的当て（スナップ練習） ○遠投練習			
5 0 分	○まとめ（整理運動・振り返り・本時のまとめ・健康観察）				

4 感想

今回の研修では、投運動と球技を中心に授業参観を行った。特に、その中での教師と生徒の前向きな関わりが印象的であった。教師が明るく生徒に声をかける場面が多く見られ、生徒の表情もとても明るく伸び伸びと活動していた。また、教師が、生徒の声やつぶやきを拾い、生徒の心を開かせる環境作りを意識していた。今後の授業づくりでは、問いかけの仕方を工夫することで、さらに深い学びのある授業になるよう努めていきたい。

また、互いの動きを評価しあう際に I C T を使用していた。I C T を活用することで動作が視覚化でき、生徒の興味も湧き、グループでの会話が活性化されることを客観的に検証することができた。

細かな校則に縛られない生徒たちの姿を見て、固定概念に囚われず、教育の基本に立ち返り、広い視点で物事をとらえることが大切だと学んだ。そして、改めて学習の方法を教師による「受動的注入」から生徒の「主体的思考」に変えていき、本校の実態を踏まえながら、教師も子どももお互いに刺激し合い、共に学んでいく教育活動を実現したい。